

平成 29 年 6 月 10 日(土)

## 平成 29 年度 第 1 回学校協議会議事

於：校長室

1. 開会の辞
2. 校長挨拶
3. 委員紹介・事務局職員紹介
4. 学校協議会の位置づけ  
会長（添田委員）及び会長代理（川井委員）選出
5. 議事
  - ① 本年度の「学校経営計画」について
  - ② 本年度の「学校教育計画」について
  - ③ 教科書選定について
  - ④ 質疑応答
  - ⑤ 次回協議会日程
6. 閉会の辞

### 事務局からの「議事」に係る説明

#### ①「学校経営計画」について

<校長より>

##### ○「学校経営計画」について

##### I、「中期的目標」について

中期的とは今年度から 3 年間のこと。

(\_\_\_\_\_部分が昨年度との変更点)

- 1 (2)※・・・東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学の合格者数合計（平成 28 年度 120 名）を維持する。
- 2 (3)※・・・1, 2 年生の一日当たり平均自学自習時間（平成 28 年度 92 分）を平成 29 年度 120 分にし、以降それを維持する。
- 3 (3)※・・・遅刻件数（平成 28 年度生徒一人当たり平均年間 2.6 回）を平成 31 年度までに生徒一人当たり平均年間 1.5 回にする。

##### II、「今年度の重点項目」について

- 1 (1)ア・・・長期留学生の受入れ等、これまでの取組を継続していきたい。
- 1 (1)イ・・・SET 配置 2 年目となる。聞く・話す・読む・書く、の四技能を統合して指導する TOEFL iBT 英語教育を、本校英語科が工夫して作り上げてきた。今年度もその内容をさらに充実させる。
- 1 (2)ア・・・多くの場面で、本校卒業生に支援していただくという方針を継続していく。
- 1 (2)イ・・・今年度 2 年生から普通科も課題研究を行う。指導する教員の負担は

増えるが、その方針は昨年度校内で共通理解ができています。また、京都大学大学院文学研究科応用哲学・倫理学研究センター（CAPE）をはじめとして、さまざまな研究者に支援していただいている。

2 (1) アイウ・・・リーダー育成プログラムは、Ⅰがクラブ代表者会議、Ⅱが HR 委員（特に1年生）、Ⅲが部活動サポート。

その他、遅刻に対する取組、自学自習、教員の授業力向上について説明。

## ②「学校教育計画」について

### <教頭より>

○4 ページ 「72 期北辰プロジェクト」

今年の1年生を例として、3年間を見通した生徒の教育計画を説明。入学後すぐの目標は「茨高生になる」、2年生半ばの目標は「受験生になる」。

○22、23 ページ「部活動一覧」

リーダー育成プログラムⅠやⅢに関わる生徒の状況がわかる。

## ③教科書選定

高校の教科書選定のしくみを説明。また、昨年度の学校協議会の助言を受け、今年度の教科書選定作業にPTAの協力を得ることにした。7月のPTA役員会の時に時間を調整して、選定状況の報告と意見聴取を行いたい。

※大学等進路結果について、資料に基づき報告した。

## ④質疑応答

### 【学校教育計画について】

#### <「保健」のディベート>

委員：15ページの保健体育科の「ディベートマッチ」とは、どのような取組か。

事務局：「28年度GLHS報告書」の39ページに6つのテーマを記載している。テーマに対して自分の意見とは関係なく賛成の立場、反対の立場に分かれ、それぞれの立場から情報を集め、論を戦わせるもの。保健の授業では15年前から行っている本校の特徴的な取組で、昨年度はCAPEから教授や大学院生に来ていただき、テーマのとらえ方や論の立て方等、様々な面からアドバイスしていただいた。

### 【学校経営計画について】

#### <バディシステム>

委員：バディシステムは1対1か。

校長：必ずしも1対1ではない。経験の長い教員と新しい教員が相互に授業を見て、授業力を向上させる一助としている。

<遅刻指導>

委員：遅刻は生徒一人当たり平均 2.6 回となっているが、遅刻の多い生徒もいれば、全く遅刻しない生徒もいる。遅刻の多い生徒の指導はどうしているか。

事務局：遅刻の多い生徒には、例えば早朝登校を促し、指導している。

委員：遅刻は時期的なものもあると思う。梅雨や3年生の冬など、増える傾向がある。遅刻の増えそうなタイミングを見て指導してもらえればよい。

<「課題研究」>

委員：学年全員で課題研究をやるのはよいことだ。具体的テーマは何があるか。

事務局：「GLHS 報告書」の 28 ページに昨年度のテーマがある。29 ページの「溶液中における銀樹の成長過程と形態変化」は GLHS 課題研究合同発表会の本校代表チームのテーマ。また、今年のテーマでは例えば、「オリンピックを通して現代社会を考える」といったものもある。

【その他】

<教員の多忙>

委員：茨木高校は部活動が盛んだが、教員の負担はどうなっているか。

校長：教員は非常にまじめなので、生徒が部活動をやりたいと希望すれば、週休日でも付添をしている。現実的に教員の多忙な状況を減らす対策は難しい。外部指導者がいる部活もあるが、試合の付添は教員である顧問がしなければならない。全校一斉退庁日（本校は火曜日）や週 1 回のノークラブデー（クラブごとに設定）で、少なくともその日は早く帰ろうという文化を作るのが今の段階。

委員：休息もトレーニングの一環。民間企業の中でも残業をなくそうとしているところがある。

校長：学校に対する社会の期待は大きく、その期待に応えようとすると教員の多忙は避けがたい部分もある。ただ、全校一斉退庁日の呼びかけが意識変革につながっていけばよいと考えている。

委員：意識が変わるには、形から変えるという取組はよいと思う。

委員：社会は変わりつつある。また、子どもは学校だけでなく、地域、家庭と協力して育てていくのが大事。

⑤次回協議会日程確認

平成 29 年 9 月 16 日（土）午後 2 時～ 4 時

6. 閉会の辞